

『産学連携学』原稿執筆要領
(2012年2月14日 改定)

特定非営利活動法人 産学連携学会 学術委員会

1. 全般的な事項

- 1.1 和文は原則として現代仮名遣いと常用漢字を用いて記述する。「である調」とする。
- 1.2 英文はすべて半角英文字で記述する。
- 1.3 私的な表現、広告、宣伝に類する内容は記載しない。
- 1.4 和文で使用する句読点はカンマ(,)とピリオド(.)を使用し、てん(、)とまる(。)は使用しない。
- 1.5 字体は、原則として和文は明朝体、英文数字は Century とする。
表現上必要な場合は、字体を指定することができる。字体の指定は、原稿中に分かりやすく明記する。ただし、学術委員会の判断により、特殊な字体を認めない場合がある。
- 1.6 文章は要点をよく絞り、簡潔に記述する。

2. 用紙とレイアウト

- 2.1 用紙は A4 版とし、印刷する場合は上質白紙を用いる。
- 2.2 本文原稿はワープロソフトを用いて作成し、A4 版縦置き用紙に横書きとする。レイアウトは上下左右に 20~30mm の余白をとり、1 ページに 1,600 字(40 字×40 行、字数は全角文字換算であり以下同じ)、フォントサイズは 10.5 ポイント以上で設定する。
- 2.3 図表(写真を含む)原稿は、用紙 1 枚につき 1 図表を配置する。

3. 原稿分量制限

3.1 論文

原則として、15,000 字を標準とし、概ね 20,000 字以内(6 ページ(本誌の刷り上がりのページ、本章(3)において以下同じ)標準、概ね 8 ページ以内に相当)とする。

3.2 研究ノート

原則として、10,000 字を標準とし、概ね 15,000 字以内(4 ページ標準、概ね 6 ページ以内に相当)とする。

3.3 原稿募集

原稿募集する際に学術委員会が提示する条件による。

3.4 自由投稿

原則として、概ね 10,000 字以内(概ね 4 ページ以内に相当)とする。

3.5 図表を配置する場合は、その分字数を減らす必要があるが、大まかな目安としては、1 図表につき概ね 600 字程度と換算するとよい。

4. 投稿原稿の構成

4.1 投稿原稿は、1)表紙、2)要旨、3)本文、4)引用文献、5)図表の順で構成し、1)~5)のそれぞれが別ページになるようにし、表紙から図表までを通してページ番号を付ける。

4.2 PDF により原稿を投稿する場合は 1 つの電子ファイル、ワープロソフト等により最終原稿を提出する場合はなるべく少ない数の電子ファイルに、まとめることを原則とする。

5. 表紙

5.1 表紙には、1)表題、2)著者名、3)所属機関(部署)名・住所、および必要に応じて 4)責任著者の連絡先(必要な場合)を、日本語と英語の併記で記載する。

なお、著者の役職名などは記載しない。

5.2 表題は簡潔で、その内容を的確に表現できるものとする。字数は原則として和文で 30 字以内、英文で 15 語以内とする。

英文表題では、原則として先頭の単語および冠詞、前置詞、接続詞以外の単語の頭文字を大文字にする。

なお、長論文を分割して、第 1 報、第 2 報などと連載する形式は認めない。

5.3 著者名の英文表示は、名、姓名の順とし、姓はすべて大文字とする。

著者が複数の場合は、和文ではカンマ(,)で区切り、英文ではカンマ(,)および and で連結する。さらに、責任著者名の右肩にアスタリス

ク(*)を付け、脚注に英文で「**Corresponding Author**」と記載する。必要に応じて責任著者の電話番号、ファックス番号および電子メールアドレスを記載することもできる。

(例)

産学太郎*, **John F SMITH**

Taro SANGAKU* and John F. SMITH

5.4 所属機関名と住所はカンマ(,)で区切って連記する。

著者が複数で所属機関(部署)が異なる場合は、著者名と対応させて、所属機関(部署)名の右肩に算用数字を付ける。

(例)

産学太郎^{1*}, **John F SMITH**²

...

産学連携大学¹, 〒111-1111 東京都産学区産学 1-1-1

国際連携大学², 〒222-2222 東京都国際区国際 2-2-2

...

6. 要旨 (Abstract)

6.1 論文、研究ノートには、和文および英文の要旨を付けることとし、要旨の冒頭には日本語と英語の表題を記載する。すなわち、表紙と要旨の2ヵ所に表題を記載することとなる。

6.2 表題の後に1行改行して、和文要旨と英文要旨を記載する。和文要旨は300字程度、英文要旨は200語程度に簡潔にまとめる。図表などの引用は行わない。要旨には、研究の結果明らかとなった結論を簡潔にまとめたものを含める。

6.3 英文要旨の後に1行改行して、「**Key Words**」の見出しを付け、内容を的確に示す英語のキーワード(8語以内)をアルファベット順に記入する。

6.4 査読は著者名を伏せて行われるため、原稿の要旨以下の部分では、著者名が分かるような表現(「拙著」など)は避ける。

7. 本文

7.1 原則として、次のような大項目を設けて記述する。

(大項目の例)

- ・はじめに／緒言／目的
- ・研究方法／調査手法
- ・結果

- ・考察
- ・結論

大項目(章)には、適宜、中項目(節)や小項目(項)を設けることができる。項目はいずれも和文ではゴシック体、英文では太字(**Bold**)とする。

大項目は「1. はじめに」のように数字とピリオドに引き続いて記載し、その上下は1行ずつ空白とする。

中項目は「(1) アンケート調査」のように括弧付き数字を付けて記載し、その上だけ1行空白とする。

小項目は「a) 大学における取組」のように片括弧付きアルファベットを付け、上下の行には空白は設けない。

7.2 数式等に使われる文字、記号、単位記号などは、できるだけ常識的な記号を使い、必要に応じて記号の一覧表を付録として記載する。

数式はできるだけ簡単な形でまとめ、式の展開や誘導部分を少なくして文章で補う。数式を記す場合には、記号が最初に表れる箇所に記号の定義を文章で表現する。同一記号を異なる意味で使わないよう注意する。

7.3 単位は、原則としてSI単位系を使用する。単位にSI単位系以外の単位系を用いる場合は、次のように括弧書きで併記する。

(例)

9,8kN/m² (1tf/m²)

0.49MPa (5kgf/cm²)

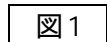
7.4 脚注の使用は避け、本文中で説明するか、本文の文脈に直接関連しない場合は「付録」として本文の末尾に配置する。

7.5 本文中に文献を引用した著者等の人名を記す場合は、姓のみの表記とし、必要に応じて年号を括弧内に記すことができる。著者が2名の場合は、和文では「と」、英文では「**and**」を用いて姓を連記する。著者が3名以上の場合は、筆頭著者の姓の後に、和文では「ほか」または「ら」、英文では「**et al.**」と記述し、第2著者以下は省略する。

7.6 本文中で図表を引用する場合は、図表の番号(「図」または「表」を含む)を和文ではゴシック体、英文では太字(**Bold**)で示す。また、それぞれの図表の挿入希望箇所を、本文中に1行とって次のように記入する。ただし、印刷物のレイアウトの関係上、実際には図表を希望どおりの箇所に挿入できないことがある。

(例)

・・・〇〇大学の産学連携は近年活発化しており、**図1**に示すとおり共同研究は増加している。



次に、こうした共同研究の増加に対する産学連携センターの貢献について分析する。・・・

8. 引用文献

8.1 引用した文献は引用順に通し番号を付けて一括して記載し、本文中にはその番号を右肩上に示して対応させる。

なお、具体的な引用が本文中にない文献、参考文献などは記載することはできない。

8.2 引用文献が雑誌の場合は、通し番号、著者名、表題、雑誌名、巻(号)、ページ、発行年の順で記載する。

8.3 引用文献が書籍の場合は、通し番号、著者名、書籍名、ページ、発行所、発行所の所在地(都市)名、発行年の順で記載する。

8.4 著者名が複数の場合は、省略せず全員記載することとし、日本語の文献ではカンマ(,)で区切り、欧米言語文献ではカンマ(,)および **and** で連記する。ただし、著者があまりにも多い場合は、省略することができる。

8.5 外国人名は、「姓、名の頭文字」の順で表記する。

8.6 著者名と表題の間は、コロン(:)で区切る。

8.7 欧米言語の雑誌名や書籍名の字体はイタリック体とする。また、雑誌名や書籍名を構成する単語は、原則として先頭の単語および冠詞・前置詞・接続詞以外の単語の頭文字を大文字にする。

8.8 同一著書や同一雑誌が続く場合でも、ダッシュ(―)を用いたり、「同上」、「**ibid**」などと省略しない。

8.9 雑誌の巻数は太字(**Bold**)とする。号数は括弧内に記す。

8.10 書籍の記載において、発行所の所在地名が複数ある場合は、最初の**1**カ所のみを示す。

8.11 受理(採択)されたが未発行の文献は、巻(号)やページの部分に、和文では「印刷中」、英文では「**In press**」と記すことができる。投稿中でまだ受理(採択)されていない文献については、著者名の後に、和文で「未発表」、英文で「**Unpublished**」と記す。

(引用文献記載例)

1) Smith, J. F. : Coherent Function between the Renkei-factor and Innovation, *Ann. Rev. AUTM*, **23(1), 601-639, 1991.**

2) Smith, J. F. and Karniadarkis G. E. : *A first course in MOT*, pp.125-126, The MOT Press, New York, 1992.

3) Karniadarkis, G. E., Orszag S. A. and Yakhot, V. : Renormalization group theory simulation of transitional and relationship over a business step, *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Economy*, pp.159-177, Cambridge University Press, Cambridge, 1993.

4) 産学太郎, 連携花子 : 代表的な産学連携プロジェクトの成功要因の分析, 産学連携学, **3(2), 26-33, 2003.**

5) 産学太郎, 連携花子 : 産学連携における数値解析手法, p.154, 産学連携社, 東京, 2004.

6) 産学太郎, 連携花子 : 大学産学連携センターの設立とその発展, 日本の産学連携の歴史, 127-135, 産学連携社, 東京, 2005.

9. 図表

9.1 図表は本文での引用順に並べる。

9.2 写真, グラフ, 線画等はすべて図として扱う。

9.3 図表中では、原則として本文と同じ言語を使用する。

9.4 図表の大きさは、実際の印刷物の**2~3**倍程度の大きさで描く。特に、図表本体中の文字が実際の印刷物で小さくなりすぎないように注意する。

9.5 図表は白黒で作成する。ただし、カラー印刷を特に希望する場合は、その旨を明記してカラーで作成する。なお、写真、図表等のカラー印刷やアート印刷紙の使用など、特殊な印刷にかかる費用は、すべて責任著者の負担とする。

9.6 図表には、和文の場合は「**図1**」、「**表1**」、英文の場合は「**Fig. 1**」、「**Table 1**」のように、図、表それぞれに本文での引用順による通し番号を付け、それに続いて内容を簡潔かつ的確に表す表題を付ける。表題は、表では表本体の上に、図では図本体の下に配置する。

9.7 必要に応じて図表の下に説明文を記載できる。

9.8 図表の中に注を付ける場合は、右肩に片括弧付きのアルファベット(**a**), **b**), **c**)などで表記し、図表の下にその説明を記載する。

9.9 デジタル画像の場合は、高解像度(**300dpi**以上)で出力する。なお、受理された場合には、画像本体の電子ファイル(**GIF, JPEG, PDF**形式など)も提出する。